

臨床研修カリキュラム

養成コース [産科・婦人科]

全体目標:産婦人科診療の基本を身につけ、主な産婦人科疾患について必要な検査を選択し解釈の基本を学び、産科では正常分娩の取り扱いができ、婦人科の基本的疾患の診療の管理ができる。

個別目標:

	2カ月	3ヶ月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
1	以下の検査に関し、①適応の判断 ②手技の実施 ③結果の解釈ができる。 内診、経腹・経膈超音波断層法、ノンストレステスト、 血液検査、細胞診	Biophysical profile score (BPS) について適応の判断、手 技の実施、結果の解釈ができる。
2	正常妊娠経過を理解し、これから逸脱している状態 を指摘できる。	切迫早産、妊娠高血圧症候群等の管理方針をたてること ができる。
3	正常分娩経過を理解し、取り扱いの基本ができる。	異常分娩の取り扱いの補助ができる。
4	胎児心拍数陣痛図のモニタリングができ、異常な状 態を指摘できる。	胎児心拍数陣痛図の異常に対してどのような治療を行う べきか判断できる。
5	胎児超音波断層法で胎位を診断できる。	胎児超音波断層法により胎児推定体重を算出できる。
6	異所性妊娠の可能性の有無が判断できる。	異所性妊娠の管理方針をたてることができる。
7	産科出血の診断と初期対応ができる。	
8	子宮筋腫、腺筋症の診断と手術適応を判断できる。	
9	卵巣良性病変の診断と手術適応を判断できる。	
10	産婦人科急性腹症の診断と手術適応を判断できる。	産婦人科急性腹症の術前、術中、術後管理ができる。
11	胸腔穿刺、腹腔穿刺を上級医の指導の下で実施で きる。	上級医の指導の下、穿刺部位の選定から穿刺までを実 施できる。
12	子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの進行期を理解 し、ガイドラインや患者の状態に応じた治療法を検討 できる。	子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がんの進行期を理解し、 ガイドラインや患者の状態に応じた治療法を立案する。
13	化学療法をプロトコルに従って施行し、有害事象 を理解し対応できる。	化学療法の有害事象への初期対応ができる。
14	放射線療法をプロトコルに従って施行し、有害事 象を理解し対応できる。	放射線療法の有害事象への初期対応ができる。
15	悪性腫瘍の治療効果判定ができ、治療方針の議論 に参加できる。	悪性腫瘍の治療効果判定ができ、複数の治療方針を立 案することができる。
16	緩和ケアに関して理解し、患者の症状を傾聴し、基 本的な症状コントロールに関して対応できる。	緩和ケアにおいて疼痛管理が実施できる。

方略:

病棟で5-10人程度の患者を受け持ち、上級医、指導医の指導のもと受け持ち医として主体的に診療する。

- ・ 病院教授回診(産科)・・・週1回(金)。受け持ち患者に関してプレゼンテーションを行う。現状を報告し、以後の治療方針を述べる。
- ・ カンファレンス・・・週1回(月)。受け持ち患者について現状と自分の考える治療方針を述べ、グループとしての方針決

定の議論に参加する。1週間の治療、検査計画を上級医、指導医の指導のもと決定する。また、自分が受け持ち以外の患者に関しても議論に加わり治療方針、計画決定に関与する。

- ・ 放射線診断部との合同カンファレンス・・・週1回(金)。画像診断の読影に参加し、患者のプレゼンテーションを行う。(休止中)
- ・ 小児内科・小児外科・麻酔科・薬剤部との合同カンファレンス・・・週1回(火)。産科患者について、多職種で治療方針を検討する。
- ・ 症例検討会・・・週1回(月)。希有症例についての最新の知見や、新しいエビデンスについて発表される会に参加し知識の習得を行う。
- ・ 手術・・・産科においては腹式深部帝王切開術の第1、2助手(可能ならば執刀)を行う。婦人科においては可能な限り第2助手として手術に参加する。執刀可能な患者がいた場合には付属器摘出術の執刀を行う。

評価：

- ・ EPOC II による評価を行う。
- ・ 修了時にミーティングを行い、スタッフおよび後期研修医と意見の交換を行う。